

五月十四日歩兵第三十二聯隊長、指揮ヲ脱シ、師団ニ復
歸ス。本戦ヲ官ニ於テ大隊長三浦中佐、附神野大尉
副官、北野中尉、第四中隊長若瀬中尉、第三中隊長
勝石中尉、其他將校以下多数ノ戦死傷者ヲ出セリ。
吾番彈藥ノ大半ヲ失ス。敵ニ與ヘル損害亦甚大ナリ。
狀況ノ近迫ニ伴ヒ、認定ノ暇ナク、首里ニ後退シ、止ルキニ至ル
。昭和二十年五月十五日、首里ニ脱出、輕進セル各隊、殘存兵力
ヲ首里平良町六三旅團司令部陣地ニ集結、整理ス。
大隊本部指揮機関ノ殆ド九割ヲ失ヘル部隊ハ、歩兵砲
中隊長ヲ大隊長代理トシ、由井准尉ヲ副官ニ當テ、集成第一
中隊長木田中尉、第二中隊長鴻巣中尉トシ、遊谷准尉
機関砲銃小隊長上井(三銃)岡中尉、歩兵砲小隊長上井
編成、攻成ヲ實施ス。
五月十五日、大隊ハ、賀谷部隊(独歩十二大隊)長、指揮シ

入ラシメ、ラレ首里赤田町六十二師団野戦倉庫背後右
嶺東側高地ヲ陣地ヲ占領シ、占領次期作戦ヲ準備ス。
部隊一部兵力ヲ抽出シテ、独立歩兵第十三大隊ニ配属
セシム。爾後、余力ヲ與テ陣地ヲ補強、索敵ニ努ム。
陣地既備要図別紙其ノ三ノ如シ。
三戦半至過概要 其ノ三 昭和二十年五月十九日
一、部隊ハ、師団命令ニ基キ、五月二十七日、兵力ヲ集結シテ、島尻
郡ニ輕進、山川村西南方支那附近ヲ占領シ、南下セル敵
ヲ阻止、撃滅スヘク準備シタルモ、五月二十八日、大里村ニ輕進
ヲ命ゼラレ、部落西側(五五)高地ヲ占領、與那原兩包
森方向ヨリス、敵ニ對シ、戦線ヲ準備シ、アリタルモ、五月三十日
更ニ高平ニ移動、同陣地ヲ獨立歩兵第十四大隊一部ニ
移讓ス。同夜、高平ニ輕進スルヤ、既ニ敵ハ、該地北側高
地ニ進出シ、アリ、為ニ部隊ハ、直ニ戰線ヲ準備シ、完了、同後

半夜 田中中尉以下全負該敵ニ対シ夜襲ヲ決行ス

田中中尉前田中尉(當時木田中尉ト交代シ中隊長)由井

准尉外十数名戦死同シ若崎曹長以下数名ノ重

軽傷者ヲ去シ奪取スルニ到ラズ翌三十一日夜再々全カヲ以

テ確保ニ努メタルモ同地ハ遂ニ敵手ニ落ワ

2. 昭和二十年六月二日愈々我方戦況不利トナリ布團

命令ニ依リ大隊ハ小渡東側高地ニ転進ス

賀谷支隊ハ主トシテ海ニ面ヨリ敵ノ上陸ヲ考慮シテ東

海岸並ニ海岸線ニ沿フ本道附近陣ヲ占領不完全

陣地補強ニ晝夜別ナク邁進ス

3. 昭和二十年六月十七日與座中座附近ノ情况紫迫

スルヤ大隊ハ該地ニ急行シ一〇八高地ニ到リ獨立混成

隊四十四旅團長ノ指揮ニ入り直チニ戦斗開始猛攻ニ

来ル敵ニ対シ激戦死斗ヲ續ケ最後ノ抵抗ヲ為スルモ

勢方ニ業シタル敵ハ陸海空相俟ツテ猛攻肉迫ニ来ル

戦半八時ノ刻ニ我ニ利アラズ

4. 昭和二十年六月十九日拂曉中村鴻巣兩中隊(部

隊残存兵力全負MG Aモ含シ)約百五十名(戦士ニ耐得ル者

全員)ハ中村中尉指揮ノ下最後ノ戦ヲ敢行シ六月十九

日午前八時頃迄彼我入り乱レテ混戦ニ出ル強要ニ

共ニ多大ノ損害ヲ出シ我部隊ハ遂ニ解隊狀能ハトス

本戦中中村中尉西中尉井手曹長以下多数戦

傷死ス

5. 昭和二十年五月二十日鴻巣集中尉以下生俘者僅カ数十名

トナリタルヲ以テ斬以テ隊ヲ組織シテ各々敵中隊ヲ替入シ

挺身斬込ヲ續行セリ